

下諏訪駅整備にかかる基本構想

「長時間滞在する人が少ない」という駅の特徴からカフェ・コンビニ等は事業採算が合わない。

= 目指す方向性としては、「短時間利用 × 高頻度利用 × 地元住民の生活導線にフィットする駅」

駅リニューアルのコンセプト：「生活の5分を整える駅（5-minute Life Hub）」

= 通勤前・通学前・帰宅時の「5分の寄り道」を価値に変える駅。

長時間滞在を前提にしない地元住民の生活導線に寄り添う小規模事業でも成立/出店者のリスクが低い地域のショーケースとして機能

5分で完結する 「マイクロサービス」群	通学・通勤者が “毎日使う”仕掛け	駅を “地域のショーケース”に	駅の魅力を高め、 周辺活性化につなげる導線
■受け取り型サービス ・ ネットスーパー受取ロッカー ・ クリーニング受け取り ■5分で買い物 ・ 地元パン屋の朝限定販売 ・ コーヒースタンド（テイクアウト） ・ 地元商店の弁当屋・カレー屋 ・ 日替わりミニ物販 ■その他 ・ スマホ充電スポット ・ 傘シェア・自転車シェア	■学生向け ・ 自習できる「立ち席カウンター」 ・ プリントアウト機（提出物需要） ・ 置き傘・置き文具サービス ■通勤者向け ・ コーヒー定期券 ・ 朝の「5分だけ開く」地元パン屋 ・ 仕事前の「軽い作業スペース」	■商工会チャレンジショップ強化 = 「地元の小売りが試せる駅」に ・ 1週間単位のミニ出店 ・ 朝だけ・夕方だけの時間貸し ・ 部活動・授業作品展示 ・ 地元企業のPRスペース ・ 町内イベントの告知ハブ	■駅を「生活の5分を整える場所」に ・ 駅の利用頻度↑ ・ 駅前の滞在時間↑ ・ 駅前商店街への回遊↑
出店者のリスクが低く、チャレンジショップとも相性が良い	長時間滞在ではなく“毎日使う理由”をつくる	駅が“地域の顔”になり、周辺の回遊性が上がる	地元事業者の出店ハードルが下げ、“駅を中心とした生活圏”が再形成される好循環めざす
ささやかな人と人との接点で、挨拶を交わすことができる機会をはぐくみ、「ありがとう」がふれるまちの安心感とシビルプライドを醸成			

ゾーンイメージ

FAST PASS ゾーン	PICK-UP HUB ゾーン	LOCAL SHOWCASE ゾーン	MICRO WORK & REST ゾーン
通勤・通学者が “最速で使える”5分完結エリア	受け取り特化の “無人型”サービス集積エリア	チャレンジショップ + 地域のショーケース	長居しない “立ち寄り型”ワーク&休憩
朝夕のピーク時に 最も使われる場所をつくる	駅を 生活の受け取り拠点にする	駅を “地域の顔”にする	学生・通勤者の ちょっとした作業ニーズに応える
・ テイクアウト・コーヒースタンド ・ 朝限定のパン・おにぎり店・カレー店等（地元店ローテーション） ・ モバイルバッテリーシェア ・ 傘や自転車のシェア ・ 交通系ICチャージ機 ・ 5分で終わるミニサービス（靴磨き、ワンコイン修理等）	・ 宅配ロッカー（Amazon/ヤマト/郵便局） ・ ネットスーパー受取ロッカー ・ クリーニング受取ボックス ・ 地元商店の置き配ロッカー ・ 学生向けプリントアウト機（学校提出物需要）	・ 商工会議所のチャレンジショップ（週・月替わり） ・ 地元高校の作品展示（美術・工業・書道等） ・ 地元企業のPRスペース ・ 町内イベントの告知ボード ・ 夕方だけ開く「地元惣菜ミニ市」	・ 立ちカウンター（電源付き） ・ Wi-Fi ・ 1～2席だけのミニワークブース（予約制でも可） ・ 高齢者向けの短時間休憩ベンチ ・ 自販機（飲料・軽食）
“滞在させない”ことで回転率が高く、採算が取りやすい 出店者の負担が小さいため、チャレンジショップとも相性が良い。	無人運営のため採算性が高い 高齢者にも使いやすい “駅に寄る理由”が増える。	“地元の小売り”を育てる駅 観光客にも地域の魅力が伝わる。 駅の滞在価値が自然に上がる。	カフェの代替として“滞在しすぎない”設計。学生の放課後利用が期待できる。 運営コストが低い。